

# 徳島市民病院だより



〒770-0812 徳島市北常三島町2丁目34番地 徳島市民病院  
Tel(088)622-5121(代表)

徳島市民病院の理念  
「思いやり・信頼・安心」

平成26年

2号

平成26年11月

## 呼吸サポートチームを結成しました!!

ICU看護師 西野ひとみ 朝賀千秋

徳島市民病院ではこれまで、職種別・部署別に人工呼吸管理が行われており、組織的な管理は行われていませんでした。今回、私たちは、呼吸療法認定士の資格を修得し、「呼吸管理について専門的に学んだ知識・技術を皆に広めたい」「呼吸管理をもっとサポートしたい」「市民病院にも呼吸チームがあるといい」という熱い思いが沸き上がり、呼吸サポートチーム(RST)の結成を提案しました。

疾患の複雑化や人工呼吸器の進歩に伴い、呼吸管理法も変化しております。そのような現状で人工呼吸管理は難しく、いったんトラブルが起きると重大な結果を引き起こしかねません。患者さんが安心して、安全でより高度な治療が受けられるよう、専門的知識や技術を持った



スタッフを中心にも職種の間で必要と感ずるところを共有し、6月に呼吸ケアに関する指針となるようなチーム「呼吸サポートチーム(RST)」を立ち上げました。RSTは、医師・看護

師・理学療法士・臨床工学技士で構成されています。チームの活動は、人工呼吸器関連肺炎の減少、人工呼吸管理期間短縮、再挿管率

の減少を目的に掲げ計画を立てています。主担当医と看護師が連携を図りながら、人工呼吸器を装着している患者さんのラウンドをチームで行い、早期離脱を目指すためのサポートや、長期療養のために在宅人工呼吸器へのサポートを行います。臨床工学技士を中心とした医療安全の徹底、理学療法士を中心とした早期リハビリの介入も加わることで、呼吸器治療・呼吸器ケアの向上や適正化・標準化を図りながら、院内勉強会も開催し、RSTメンバーや職員全体への教育の充実にも力をいれ、人工呼吸器の使い方や人工呼吸器の使い方を考えています。

呼吸器装着中の看護、注意点を記載した看護マニュアルを作成、各部署に配布し、看護が統一できるようにしました。

呼吸管理はそれぞれのプロフェッショナルである多職種が力を合わせることで、一人で成しえる医療を超えた医療、患者さんが自立した呼吸機能に回復できるよう、また一方で、離脱が困難な患者さんが精神的に豊かさをもって人間らしい、自分らしい生活を送れるよう支援していきます。チームの活動を充実させ、それぞれの職種から刺激をもらい、モチベーションの高いチームとなるよう努力したいと思います。

## がんセンター設立にむけた取り組みについて

がんセンター準備委員会 委員長 三宅秀則

市民病院は、国の「がん対策推進基本計画」に沿った取り組みが認められ、平成22年度に「地域がん診療連携拠点病院」の指定を受けました。今後、急速な超高齢化社会により、がん患者はさらに増加する見込みであるうえ、がん治療の進歩により、がんと共存する患者数も増えてきます。

市民病院は、がん患者さんの病状に応じて、最適な診療を提供できる「がんセンター設立」にむけた取り組みを進めています。

現在の取り組み状況ですが、8月に、がんセンター準備委員会をたちあげ、がんセンターの中心的な役割となるカンサーボード(最適な治療を提供することを目的として多職種で開催される検討会)の運用等について検討を行っています。

患者目線にたち、がん診療の更なる充実を図るために、調査・検討を行い、できるだけ早期にがんセンター設立を実現させたいと考えています。



▲がんセンター準備委員会の様子



地域医療連携室・がん相談支援センターで看護師が見たもの

退院調整看護師・がん相談員 蟻井 岐美



平成23年4月に、看護師として初めて地域医療連携室に机を置き、がん相談員と退院調整を行うようになりました。職員ですらよく知らないこの部屋で私が見たものは、懸命に生きようとする患者さんや

ご家族を支えようと、静かに粘り強く、突きつけられた現実と戦うソーシャルワーカーの姿でした。知識・情報処理・交渉術・人を思う気持ちなど、どれを取ってもプロでした。彼女たちのテーマソングがあるとすれば、「その船を漕いでゆけ。お前の手で漕いでゆけ・・・」(宙船、FUKIO)か「向かい風の中で嘆いているよりも、上手く行くことを想像すれば、いつの日か変わる時が来る・・・走り出せ、走り出せ、明日を迎えに行こう♪」(Happiness、嵐)でしょうか(笑)。彼女たちの頑張りに、「看護師も負けてはいられない。」と密かに闘志を燃やす毎日です。

がん相談、医療・福祉相談、転院調整、在宅支援、かかりつけ医の紹介、地域の病院との連携、統計処理、セカンドオピニオンの対応など、地域医療連携室・がん相談支援センターの守備範囲は多岐に渡ります。国の方針が様々に変わる中、正直対応に苦慮することも多々あります。でも、この場所で患者さんの為に何かできることは、看護師冥利に尽きると思っています。

病気になるってつらいことが雪崩のように襲ってきて、それは永遠には続かず、きつと出口が見つかります。どうかひとりで悩まずに、相談にいらしてください。スパーマンにはなれませんが、話をするだけでも気持ち軽くなるかもしれません。地域医療連携室・がん相談支援センターでお待ちしています。



ヨーロッパ国際整形外科学会(ロンドン)に参加して

整形外科医長 平野 哲也



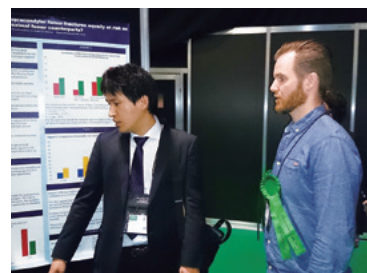
ヨーロッパ国際整形外科学会(ロンドン 6月4日~6日)にポスタープレゼンテーションのため参加しました。6月3日に徳島空港から羽田空港を経由して、12時間の飛行時間でロンドン・ヒースロー空港に到着しました。

8時間の時差があるためロンドンに到着した時間も6月3日の16時頃でした。

日本では、5月後半から6月前半にかけて真夏日が続いていたため、真夏の姿でしたが、ロンドンは、気温15℃程度と気温が低く、早速の洗礼を受けました。6月4日からは学会に参加しました。学会会場は、エクセル国際会議場という郊外にある施設で行いました。オリンピックでレスリング、フェンシング等の格闘技会場になったような巨大な会場であり、会場専用の地下鉄駅が2カ所配置されている程でした。EFORTは、ヨーロッパである整形外科の国際学会であり、ヨーロッパ各国にて毎年持ち回りでっており、今回はロンドンで開催されました。約7000人が世界中から参加し、日本からも30人程度は参加していました。6月6日が発

表日であったため、6月4日・5日は、学会会場で各セッションでの発表やポスタープレゼンテーションの発表を聴講しました。発表は主に英語の発表でしたが、同じ整形外科の内容であるため、なんとか理解する事が出来、大変勉強になりました。

6月6日は学会でのポスター発表の日です。1時間、自分のポスターの前に立って、ポスターの前を通りがかる人たちに「Do you have any question?」と問いかけていたら、皆さん優しいので何かしらの質問をしてくれ、それに対してたどたどしい英語で答えて時間をやり過ごしていました。ある時間になると審査員やギャラリーがポスター前に集まって5分間の発表、その後5分の質問時間がありました。発表内容は、大腿骨ステム下骨折に対して、逆行性髄内釘を加工した『ドッキングネイル』をステムと噛み合わせて骨接合を行う当院独自の治療法について行いました。同様の発表をたまたまロシア人が発表していたためギャラリーも多く、質問も白熱し、とても良い経験をする事が出来ました。今回の経験を今後の医療に役立てることが出来るように頑張ります。



眉誠連

今年も8月13日に踊りました!



▲まずは、病院前を演舞  
▲連長：井上聖也  
▲副連長：森田敬文



▲過去最多の総勢 109 名が参加 !!

▲演舞場でも踊りました



▲施設地図を用いて防災対策を検討する災害図上訓練



9月20日、院内で災害を想定した初動訓練を実施しました。

# 災害訓練を実施しました



▲負傷者(模擬患者)のトリアージを行う初期対応訓練



▲訓練で使用したトリアージタグ

## 3rd版 研修医日記

### ICLS (Immediate Cardiac Life Support) コースに参加して

研修医 1年目 岡本 瞬



この度、6月22日に徳島大学で開催されたICLSコースに参加させて頂きました。ICLSとは突然の心停止に対する対応とチーム蘇生を目標とし、そのための技術やチーム医療を身につける蘇生トレーニングコースです。医師だけでなく看護師や救命士などの様々な医療従事者が参加し、数人ずつの班に分かれて実際に起こりうる状況に応じたシミュレーション実習を繰り返すことで、チーム蘇生を学びます。

はじめスタッフの方が一連の流れをデモンストレーションとして見せてくれたのですが、無駄な動きが無く一つの蘇生チームとして各々が完璧に動いていたことに驚き、一日の講習で最後本当にこのようにできるのかと不安さえ感じました。蘇生チームはリーダー役、補助をする役、書記役など必要な役割分担があり構成されています。それらすべての役割を班員全員が体験し理解し合うことでどのような状況になっても蘇生チームの一員になることができるのです。

コースの流れとしては、前半に蘇生に必要な基本の手技や器具の使い方などを学び、その後先述したような一連のシミュレーション実習を行います。

胸骨圧迫や除細動器の使い方、挿管を含む気道確保の方法など、これらの点はこれまで何度か学生実習で経験したこともあり、余裕をもってできたかと思えます。しかしチームによるシミュレーション実習になるとそうはいきませんでした。

午前で学習した手技をふまえて、症例によってどのタイミングでどのようにするかをリーダー役は細かく指示しなければなりません。はじめのうちは考えてから動作に移すのに時間がかかり、なかなかスムーズにいきませんでした。

一つの手技だけを行うのとは違い、一連の流れの中で判断・指示しやっていくというのは頭が混乱してしまいます。しかし何度も様々な症例を繰り返し、また同じチームの人たちがやっているのを見ていると“慣れてくる”のを実感しました。リーダー役では指示を出す時間が短縮され、また補助をする側では次に必要なことを想定し予測して動けるようになっていきました。最終的には一つの蘇生チームとして機能するまでに至ることができました。

講習から3カ月が経った今、感じることは、一回の講習でこのような能力は完璧に身に付くものではないというのが正直な感想です。研修が始まって5カ月が経過し、救急外来などで研修させて頂く機会も増えてきました。これまでの研修生活で僕自身、普段の病棟業務や夜間の当直で実際に目の前の患者さんが心肺停止状態となる機会に遭遇したことはそう多くはありませんでした。だからこそ、講習で得たスキルを活かすためには定期的に手技の確認や蘇生までの一連の流れを復習しておくことが非常に重要だと感じます。

病気に対する治療は数えきれないほど存在すると思いますが、心肺停止状態の方の蘇生方法のパターンは限られています。どんな状況でも最初の救命処置はこれだと判断できる能力があればこれ程の武器はありません。12月には市民病院でICLSが開催されます。今回はスタッフという形で参加させて頂き、自分のスキルアップに繋げていければと思っています。

(次回予告) 研修医 丸山先生日記



みなさんヨロシク

病理診断・臨床検査科 診療部長 堀口 英久



9月から臨床検査科兼病理診断科の医師として採用されました堀口英久と申します。臨床検査科では臨床検査全般の管理・運営を行っています。市民病院は高度な検査設備や機器を備え、多数の臨床検査技師が業務に邁進しています。私は臨床検査科専従医師として各科医師と検査技師の連携をさらに強化し、チーム医療を円滑に行うための存在になれるよう努力していきたいと思っております。一方、兼務する病理診断科では生検や手術で採取された組織を調べ、病理学的な診断(病気の種類)等で各科医師の最終的な診断や治療に寄与しています。先般、当院は県内で初となるがんセンター構想計画を表明しました。がんを治療するにあたっては、「がん」であることを確実に診断しなければなりません。今回当院は病理診断医が複数名配置されるという体制になり、がん診療に対するさらなる寄与が期待されています。医療の質を向上させるべく努力していく所存です。どうぞよろしくごお願い申し上げます。

NICU看護主査 山下 千花

音を届けて  
 小学校の運動会で初めて見た鼓笛隊の華やかさに魅せられ、4年生で憧れの隊員になった私は、学生時代の部活動を経て、現在も社会人吹奏楽団に在籍している。楽団の定期演奏会はじめ、小・中学生との合同コンサートや吹奏楽コンクールに参加する一方、依頼があれば、小学校の授業参観や老人ホームのお誕生会、地域のお祭りや、イベント・セレモニーなどでも演奏する。色々な場所で、多くの方に音楽を楽しんで貰えるよう活動する、アットホームな団だ。「音楽好き」という一つの共通点で集まった、出身地も年齢も職業もさまざまな団員が心を一つに、ピツパッと息のあった演奏が出来た時は最高に幸せだ。



ひとりごと

お知らせコーナー

世界糖尿病 Day

毎年11月14日は「世界糖尿病デー」です。これは、世界各国で糖尿病の呼ぶ・治療・療養を喚起する啓発運動を目的としています。当院でも、糖尿病デーにちなんでイベントを開催いたします。



日時：平成26年11月11日(火)  
 内容：午前の部 11:00～12:00 血糖測定、お薬相談、食事相談  
 場所：1階エントランスホール  
 午後の部 13:00～14:00 吉野川河川敷ウォーキング  
 集合場所：1階 栄養相談室  
**13:00集合 13:10スタート→吉野川河川敷へ**

約40分のウォーキングを予定しています。運動制限のない方ならどなたでも参加できますので、お気軽にお立ち寄りください。

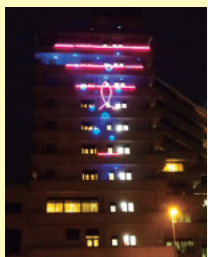
市民公開講座

市民公開講座を開講します。是非ご参加ください。

日時：平成26年11月22日(土)  
 10:00～  
 場所：ふれあい健康館  
 1階ホール  
 テーマ：がんについて  
 講師：泌尿器科主任 医 長 坂巻 浩太郎  
 産婦人科主任 医 長 山本 哲史  
 問い合わせ先：ふれあい健康館  
 TEL：088-657-0190

☆ライトアップ☆

乳がんの正しい知識と早期発見の大切さを伝えるため、啓発活動の一環として、10月1日から市民病院北側壁面にピンクリボンのライトアップを行いました。11月1日から11月14日の世界糖尿病デーにちなみ、ブルーライトアップに変わります。



是非、ご覧ください。

医療安全週間です!

毎年11月25日(いい(11)医療に(2)向かってゴー(5)を含む1週間は、厚生労働省により医療安全推進週間に位置づけられています。本年度は11月23～29日にあります。

転倒予防教室、理学療法士による転倒予防エクササイズ、転倒予防対策パンフレット配布等のイベントを予定しています。



問い合わせ先：  
 医療安全管理室  
 088-622-5121

ファミリーマート入居グッズ

おむつ、寝まき、はし・スプーンなど入院に必要な物を多数販売しています! 非常に便利!! 是非ご利用ください!

